

「わが青春に悔いなし」

佐世保市 宮崎房江さん（八十才）の場合
平成二十六年五月二十八日 中尾大樹



●プロローグ

就職によるUターン後一年が経ち、私は、同郷の友人と古いアパートをルームシェアした。その時、隣の一軒家に住んでいたのが、宮崎房江さん。挨拶したり、郵便物を預かってもらう仲になった。ベランダで洗濯物を干しながら、世間話をしたこともある。

引越しのドタバタの中で、別れの言葉も言えずのさよなら。心のどこかで引っかっていて、今回、妻と子連れて訪ねた四年ぶりのことだ。

宮崎房江さんは語る。

●引越しと母の死と戦争

生まれは佐世保よ。生まれたのは…金比羅町か。物心ついてからは神島町。戦争がだんだんきびしくなってくるやん？SSK（佐世保重工業）、当時の海軍工廠の西門、神島町はその近くだったのよ。そして立ち退きになったのよ。危ないって理由で、町ごと牽牛崎に引越したのよ。

その後、佐世保大空襲のあるっていう噂のあって、母のじいさんばあさんが疎開してこいって。今思えば、じいさんばあさんの策略やったんやろうけどね（農業を継いでもらうという）。まず、妹をさ、人質みたいに入れて行ったのさ。それで、一家で引越し。家財道具も全部一緒に、当時は、

一升瓶も貴重なものやったんよ。それで（佐賀県の）鹿島にいったのね。

そしたらね、母も農業した事ない人だから大変だったのかも知れん、ようわからんけど体調崩して、二十八くらいだったのかな、当時は、医者もいばって全然来てくれないって、一晩で死んだのよ。昭和二十年くらいかな。

母危篤って電報やっても父から連絡もなくて、後で聞けば、空襲の死体を片付けるので精一杯だったんだと。私、長女やっただけど子守り大嫌いでき。じいさんばあさんも母と血のつながりはなかったんよ。母が養女だったからね。今で言えば過労だったのかもしれんよね。母も、四人も子供がいるから死にきれんよ。その頃、ばあさんが子供は育てあげるっていったのよね。それがきっかけで…なのかもしれん。7月だったね。当時はかくらんって呼んでたよね。よくわからん病氣のことを。

●田舎の暮らし

その年の十二月頃になったらさ、じいさんばあさんが、出て行けってね（言い出した）。それで、一番下の弟をおんぶして、妹をひっぱって山をふたつ越えて、浜に行つて暮らすことになったのよ。その頃は浜も鹿島と合併前だね。農家の小屋を改造してね、暮らすことになったのよ。でも私も四年生にもなつてろくに家事もしたことなかったもんだからさ、父から米の洗い方から習うわけ、おかずは、きんぴらごぼうを最初に習ったのよね。それも、来る日も来る日もきんぴらごぼうばかり出すもんだから、ある時「材木のごとしとる」って父に怒られたよね。

佐世保にいた頃は、家事したことなかったからようわからんけど、田舎だからさ、薪をとってきて、家事をするわけ。で、田舎の子は枝をとるのも、なにするのも上手なのよ。腹立つたい？それで、弟はいじめにあうし、ボタンばずらーってはずされたり、半紙ばもってこいって取られたりね。その頃の子供の遊びと言えばペチャ（メン

コ)とかビー玉しかない、お寺の境内で遊ぶとか。うちの弟は気弱で負けるわけ。私は腹立って取り返しに行くのよ。追っかけ回しとったよね。私、母親の記憶ってあんましないのよ。でも、運動会とか遠足とか祭りのときがつかったよね。周りの子は、洋服とか下駄を買ってもらったりしてね。

●人に悪い事をしたらダメ

父がもともと石屋だったからね、ちよつと余裕がでてきて太良に家を建てたのね。人間てね、欲の塊つうかなんていうか、じいさんばあさんが追い出しとって今度は、面倒見てくれて言ってくるわけ。父も「かわいそか」って引き取ろうとしたら、家具を処分しに帰ったときに倒れて、亡くなったのよね。当時はパンツとかないけん腰巻きのふるいのを持って行って、取り替えたり看病したけど。洗うつちゆったらさ、今はもう川の流れも勢いがなくなっただけど、昔はすごかったから、そこで洗ってたよね、腰巻きも。やっぱりに人に悪い事したらダメだよって思った。これは、この時だけじゃなくて、今まで生きてきて、いろんな人を見てきて思う事。

●福岡での新生活と結婚話

その後、若い後妻さんが来て、2人子供が生まれてさ。私も気まずいというか、早く家を出た方がいいと思って、十七、八くらいで、福岡の西日本新聞の社員食堂で働きました。新制中学校の第一期生よね。そのころは、焼け跡もちらほらあったよ。今はもう都会になってしまつて、歩けんね。それから何年かいたよね。福岡に。食堂が地下室だったのよ。一度、(水害で)水浸しになったことあったね。あれは昭和二十何年ころかね。春吉から渡辺通りまで。家も水浸し。当時は水洗便所なんかなかったから、ひどい有様で、足に湿疹ができたよ(笑)

新聞記者っていうのはさ、そのころは走って通れっていうくらいガラわるかったよ。

まわりにできた店もツケで食べるし払わないから、どんどんつぶれていくわけ。でもそれがテレビでドラマがあつて以来花形になつたね。当時は、輪転機まわす仕事もずつと縁故だったのね。

あのときは私も十九で貰い手のあつた。三百六十五日みそ汁に具なん入れようって本気で考えたよね(笑)。(最初に紹介された人は)見た目は悪くないし、マジメだし、家を建てるって話もあるし…どこが悪いってはいきらんとけど、なんとなく嫌つてかんじやったのよね。そういうのつてあるでしょ?だから、彼の二日市のおぼさんのところに行くつてことで集まつた日も、めんどくさくなつて太宰府に行つたり、勝手したよね。

それでも一度も怒られたことはなかつたね。女の心理としては、怒られたいときつてあつたのかな。あんたもわからん? ずーつと待つて言つてたけど、そのま

●縁のある男N、男はロマンチスト

それから、新聞社の診療所の婦長さん、重役さんでも頭があがらんくらい強い人がおつたけど。その人に一緒になつたらどう? 言われた男がおつたんやけど、それがNという人やね。その人も三年待つとくつてゆつたけど。あいつはね…ダメ!(笑) 宮崎の人間でね、そげんしとつとにね、あるとき同僚がね、長岡は結婚したつていうのよね。Nに惚れた女がいたんだつて。それがお寺の一人娘だったのよね、人助けと思つてつて両親は頼み込んだんだつて。でもその子が散財しちゃつて、結局別れちゃつたのよね。

佐世保にもどつてきたのは昭和三十年くらいよ。朝鮮動乱のすんだころやつたね。二十くらいかな。

エンタープライズ事件つてあつたやん? その時は私も結婚してて、子供をおんぶしてたときにNと再会したのよね。「結婚してくれ」つて言われたよね。五千円置いて

いってくれたからみんなで食べちゃったよ
(笑)

妹の結婚式で太良に帰ったのよ。結婚式
終わって駅に帰ったら、名前を呼ばれた
から車からNが出てきたのよね。そういう
縁であるよね、びっくり。

平成十年にお父さん(ご主人)が亡くな
ったよね。その後、Nから電話があったよ。
実家に電話して、同窓会名簿作るからって
ここの電話聞き出したらしいのよ、それで
毎晩電話してくるのよ。男ってロマンチス
トよね。最近になってからも、(Nの)
奥さんが会ってきなさいって言うんだって。
未だに手作りしてくれた定期券入れもって
るとか。作った記憶もないわよってね。

だんだん会話もなくなってくるもんだか
ら、下着は丸首、U首?って聞いたら丸首
っていの。私丸首嫌いって言ったらU首
に変えたって報告してくるのよね。ラブレ
ターも来たよ。自分と奥さんの写真とね。
一緒になりたいって。そういうのを私もお
もしろがって娘に電話で報告するのよ。そ
したら会えばいいんじゃないの?って言わ
れたりして。男って考えたらロマンチック
よねーって、話してる。

●わが青春に悔いなし

我が青春に悔いなしって思っとるけどさ。
ちよつと寂しいよね。好きで好きでたまら
んってことがないかね。恋で悩んでみたい
っていう気持ちは：ああーないねー(笑)
主人?あいつはストーカーやね(笑)。好
きな人となら、手鍋提げても一緒になりた
いっていうじゃない。恋したことないとや
んね、不幸な女よ。(主人には)押し切ら
れたっていう風やろうね。好きで好きで一
緒になったわけじゃないもん。一ヶ月くら
い家出したことあるもん。

●佐世保は住みやすい

うちの娘婿さ、もう五十くらいなるけど
さ、最近転職しとるっさ。ばかじやなかる
うかって。川崎において名古屋に転勤にな

って、娘が帰りたいてって言っとったわけ。
最初は、このやろー転職するかって思っ
ったけど、受け皿があつてよかつたわ。普
通ならせんよ、子供はいないっていても
ね。転職する前もさ、二年に一回かアメリ
カに行きよつたもんね、仕事でね。今回も
二ヶ月半ぐらい行つとつたよ、仕事はなん
しよるか知らんけどさ。シリコンバレー?
まだ勉強してんだって。すごいよね。色々
言ってるけど、娘が結婚するとき、うちの
お父さんが亡くなったとき、川崎から引つ
越すときの三回しか会つた事ないんやけど
ね(笑)。

一度川崎に呼んでくれたのよ。仕事も休
みとつてあちこちスケジュールくんでくれ
てたみたいやけど、めんどくさいやん!ず
つと家におつたよね(笑) 神社仏閣とか
町は見たいけど、ビルはどこでも一緒じゃ
ない? ここにいたら早死にするから帰る
よって帰ってきたよね。隣の人の顔も知ら
ないマンションも気持ちわるかつたよね。
ここは住みやすいところだよね。

●世の中ほんとに面白い(娘との電話も)。

佐世保でやってた旅館の仕事は面白かつ
たよね。

いろんな人がいたよね。人間のいいとこ
ろもわるいところも表も裏も見せてもらつ
た気がするよ。ずつと働き詰め、町内会
なんかにも顔を出さなかつたと思う。娘
けど、その分娘と仲良くなつたと思う。娘
のことは基本的にはっばらかしだったし、
無関心っていえば無関心やった。それはち
よつと反省してるよね。今も電話でよく言
われるけど、今娘と電話してると楽しい。
ただで電話できる携帯送ってくれてから、
毎日電話して遊んどるもんね。2時間とか
さ。

世間話とかしても、もう話さないけん歴
史問題とか政治問題とか虐待問題とか話し
てるよね(笑)。なんで江戸時代にちよん
まげみたいな馬鹿みたいなことしとつたん
やろうね、とかさ。

娘から大バカもんって言われるけん、言い返すの面白い。腕が短いとか足が短いか言われても、私が一生懸命作った傑作って言ってやってるよ(笑)

●仕事はがんばれ、女の子は大事に育てよ。

昔ね、取引銀行の人がさ、係長課長ってあがっていくやん？ ならんっていう人がおってクビになったってよ。そういう時代があつたんだよ。向上心がないとダメだよ。ね。あんたもがんばらないとダメだよ。こういう研修とかどんどん受けて偉くならんば。なにより、あんたたち結婚してよかつた。ずっと気になつたとつたとよ。あんた彼女捨てて、逃げたっちゃなかとかねって思つたりさ(笑)。

女の子は、傷がつかないように育てなさい。顔にだけは傷がつかないように。

●エピソード

房江さん、想像以上に若かつた。帰りがけに手渡してくれただしまき、すごくおいしかつた。流石元女将。自分の青春時代、佐世保はただの田舎にしか見えなかつたのだけど、この世代にはまた違う見え方をしているのだろう。つらいことも多かつた人生のはずなのに、終止カラカラと楽しそうだった。また、家族で遊びにいきます。